

意見 品質保証の取り組みが全くの白紙から始まり、キチンと把握されて理想的に運用されればいいが、途中からの運用ではそこにはめ込むための意識的な努力等相当の苦勞があるのでは。今後、理想的に運営されることが信頼につながる。私達も勉強してより良い検証ができればと感じた。

意見 ISOは、物を作る業界に適用できるが、原子力発電所では点検における品質保証システムと思う。基本的には全てを文書にする履歴書のようなものであり、非常に良いことと思う。

意見 改善策を示した文書を見ると大したものと思うが、本来やっていて当たり前のこと。マンモス企業故に末端まで神経が行き届かなかったのか。幸い大きな事故が起ったわけではなく、本当に心を入れ替えて全力で当たり前のことを社員一丸できちつとやって欲しい。そしてこれが機能しているか、社員の意識がどう変

わったのかを、今後、第一線で取り組んでいる労働組合の方との懇談の場を持ち、確認できたらと思う。

意見 ISOは労務管理の一つにもなるわけで、従業員へは内容は伝わっていると思われる。今後、どう信頼を取り戻すかは、組合でも一番の方針でもあり、従業員個々は一生懸命やっているようだが、総体となった時にどうか問題。不適合を個々がどう考えるのか。決まった検査箇所以外をどう検査していくのか、目に見えない部分をどう品質保証、或いは安心を与えてもらえるのか疑問点はある。

意見 物づくりの企業に勤めている立場としてはISOの取得に越したことはないと思う。しかし、取得したことで危険が回避され、安全が保証できるかというところは難しい。社員一人一人の意識改革、ごまかさない、うそをつかないという気風が一番大事と思う。

意見 医療界のリスクマネジメ

ントが不適合管理の改革と同じでは。医療の場合、不適合管理委員会が厳格な方針を出してもそれが通っていくが、電力会社の中で不適合管理委員会が本当に正しい管理方針を出せるのが次の課題。

再稼働問題にしても、東電は安心をどう提供するか考えていると思うが、そこで電力不足や地元の仕事が減るからと運転再開を急いでは、絵に描いたもちでは。個人としても会社としても魂が入っていないと有効にはならない。

意見 一連の不祥事の反省を踏まえて品質保証という改革が行われ、今後も改善策を確実に実施することで国民に安心を与えてくれるものと期待。

意見 不適合の反映例として福島での2つの事例の説明があったが、原因は前の作業との連携がうまくいっていないため。作業手順をよく決めてミーンティングをしつかりすれば起きないことではないか。

意見 「報告する文化の醸成」

とあるが、これがこの通り実施されれば問題ないが、今まで実施されなかったというのは何だったのか。

不祥事発覚後、5千件もの不適合があるというが、これは理解できない数字。

シラウドに傷があっても5年間は大丈夫だから運転再開することだが、市民感情としては非常に困る。傷があるのに何故という点を行政当局がしっかりとした対応をとってもらいたい。

意見 ISOについての誤解があるようである。ISOは意識改革という意味では素晴らしい効果を上げるもので、ISO取得の過程で会社のあるべき姿、やるべきことは徹底的に検討される。従って、意識改革、企業倫理の面で数段階レベルが上がっていると思うし、そうでなければこういう資料を人前に出せるはずがなく、疑う余地は無いと思う。

不適合が5千件という数字については、毎日の活動でこうしておけば良かったという事例は幾つもあるし、判こ漏